

都林泉名勝圖會

五



都林泉名勝圖會卷之五

目錄

嵯峨小督隱家

七老亭

同寶品虫干休

後醍醐天皇御

大井川之船津遊

宗祇齋居

定嗣卿古蹟

桂川船遊

初卯齋

泉之坊

櫻櫛坊

亭子院川香

龜山院淨刹

老居庵

真樂院

嵐山花盛

道令法師趾

桂里園林堂

男山 八幡齋

安居頭

松蒼堂

山下金剛院

文龍寺方丈

同十景

妙智院 兼光和尚 向山堂

龜山殿舊蹟

法輪寺十二齋 後月橋

兼室西方寺

清原元輔家

放生會式

龍平坊

萩坊

淀登巨庵蹟



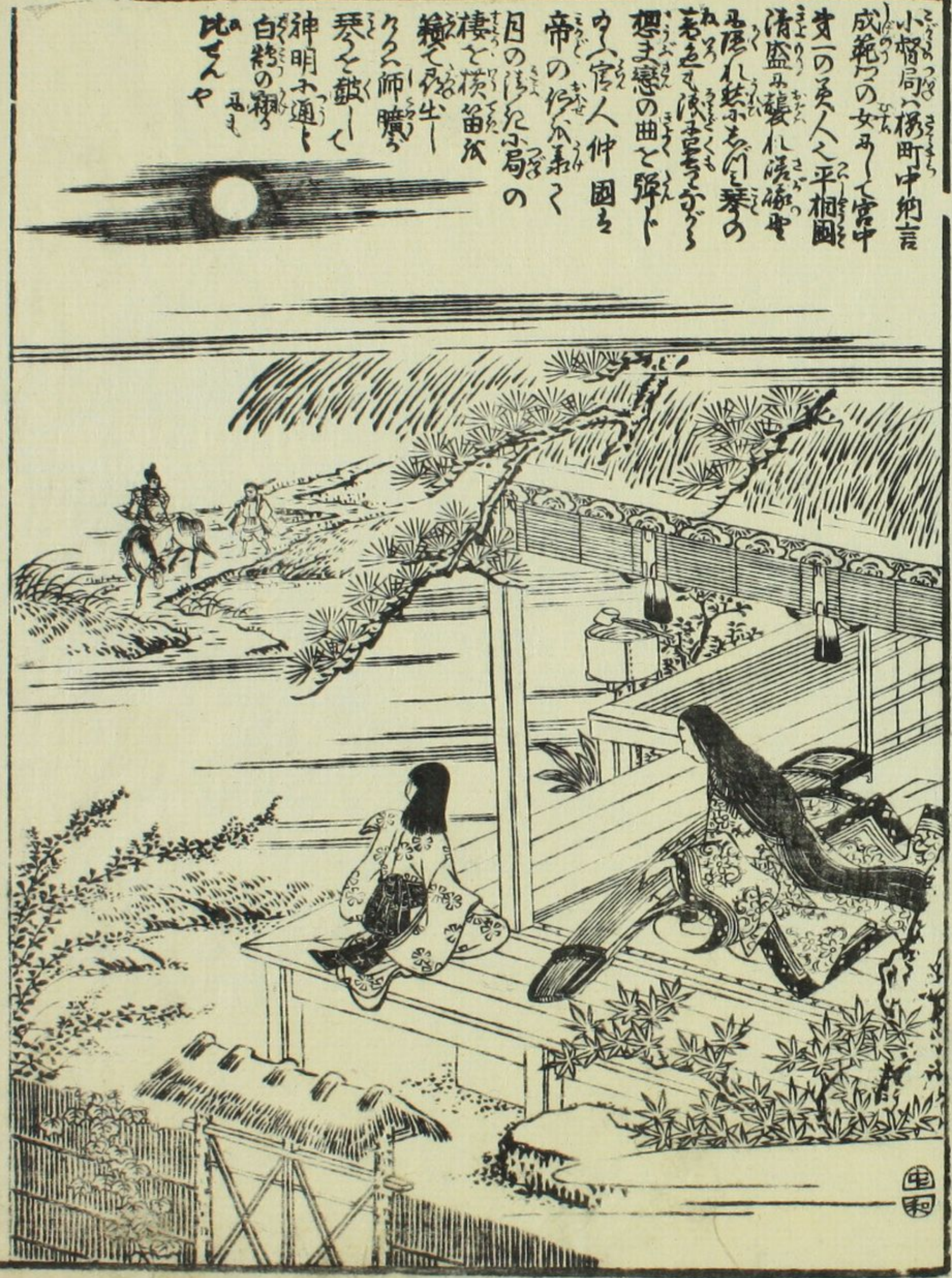
山崎妙意庵
 芝山の水鉢
 陽泉亭
 糸屋弥生興

茶室
 山崎珠跡
 不取城
 藤屋月興
 奈史之好

袖掛松
 相應寺古蹟
 弥生花家
 角屋雪興
 曲籠亭

都林泉名勝圖會卷之五目錄終

小督局橋町中納言
 成範の女みづ中
 才の美人之平相國
 清盛の娘は清盛の
 母は清盛の母の
 若くは清盛の母の
 想ふ戀の曲と彈ト
 中ノ官人仲國と
 帝の御孫と
 月の清は小局の
 樓と橋笛吹
 繪と生し
 クと師贖
 琴と鼓
 神明不通
 白鶴の類
 比とヤ



三舩賞春待序

寬政十年歲在戊午時值仲春日期念八
連朝淫雨新霽西堰櫻花盛開偶聞伶官
名工泛舩賞春因促羣賢緒子追踪從行
並皆不待則倭歌不書則丹青聚台衆能
併成三舩仰芳於嵐嶺沂舟于桂河棹分
碧潭之花影纜曳青崖之苔香清樂交奏
雅詠時間用助文藻之妙思觴酌互勸笑
謔屢闡以適歡娛之逸致跡誠同道長材
或遜經信良會雅屬佳期多違悅芽濁之
幸繼恨遲景之易沒顧雖昔賢難同茲懷
耳況分律韻得七陽以寓鄙情于八句云
翠嶂風開雲夢香山陰景轉碧川長四望

林五三

清興聞絲竹三舩歡情見羽觴霞逐曲聲
依幕落波隨醉態向舩狂昔賢勝蹟今安
在回首春天惜夕陽

平安皆川愿題

此乃日ささるりわりの事なり
富士谷 成元

わりの事ささるりわりの事なり

此詩文信園先生及少室宗道の自筆此柳橋より見たりを傳へるるに柳橋の
誹謗漢和表六句賦差我名所和陽韻賞嵐山花

嵐山嶺櫻花擁三舩
子銘も猿を俵を飛
詩成大堰陽を燎
歌詰橋を彩霞長
吹あけ藤の馬場お存
小舟のりそみ那波の橋

籬岩



岡山夏窓園師
俵うの屋中



林五ノ五

天龍寺

下候橋ノ井の松あり
五山の其一なり

此方丈の林泉ハ岡基夏窓園師ハ

仙のやうな龍尾山あり
空漣川戸難瀬瀧と庄中の莊としていさの
妙境之山門と名明閣と弊集瑞軒の蓮池と曹源池と林と鳥の
禁より水脈通じく炎暑も個どお松洞のあたりに南に松林あり
龍門亭ハ多宝院ありく戸難瀬ハ向ふ山に妙智院の
座中の僧良策考の造るる人々明小波其時角倉宗桂と父あり
通人等事ハ悲閣了以の碑ありと集瑞軒ハ方丈の書院と

一電方丈の集瑞軒より右のうりや日
あつて山みりて

家集

右より左のやとゆるわく山松と橋をさるる

夏窓園師

壺庇廣鎮守八幡宮と絶唱溪ハ弁のと弊二級巖戸難瀬瀧
三曲小流の龜頂塔ハ龜の頭あり嵐山の峯と拙は鎮といひ二井の
橋ハ度月橋といふ
之格圖云龜山殿のあけ之路筋あり今の橋乃の上
を所計之已上當山十境岡山夏窓の頃あり

宜竹集

湫八万三千戸於波心
架七十二丈橋於確底

有水皆月
赤霄何虹

天龍寺什寶於客殿虫干圖

南西向 陶山納藏

加衣沙袋 白地古金襴
金地三重蔓大牡丹

加衣沙袋 丹地富田

加衣沙袋

紗震且揚岐禪師所持
歷十七世夢窓國師傳末

加衣沙袋

紫地銀襴 國師天龍寺供養
時賜紫衣

南東向西侧 墨蹟類

國師空谷

二大字 一文字 萌葉地

國師笑山

日

國師春屋

日

中茶地

同頌

日

一文字 萌葉地

南東向北側

默翁頌

中字 模物
一文字 萌葉地 小牡丹

圓光經文

梵音閣頌

一文字 紫地 紗
中白地 小牡丹

北叟頌

文字
紫地 紗

垂楊頌

宋船綱司頌

南禪退院頌

平田頌

一文字
白地 大牡丹

南東向南側 陶山墨跡

十願文

二幅對

和菴主頌

應無

雨生

二幅對

飛空鳥

二行 州書

日本拜頌

三行 物

修多羅教

細字 橫物

宸翰案文

模物

同 東側

陶山

御手狀

種竹和韻

鐵舟墨蹟

二尺 黑紋 模物
和風

二ノ間

閑山像

自贊

閑山像

自贊

佛國國師像

閑山贊

初祖大師

佛照贊

吳道子觀音

馬祖大士

蕪漢臣

國師

自贊

國師

國

國師

國

龜山院

同

後醍醐帝

馬遠

舜舉

頽輝

同

邊文進

御歌切

御歌切

御歌切

雪峰

貳幅

虎

龍

元鳥

馬遠

馬遠

閑祖像

微舟贊

黃龍

空谷贊

仰山

立之贊

高峰

中峰

興化

平石贊

仲先祖

墨筆跡

佛國

墨筆跡

絕海

墨筆跡

同同

同同

清溪

墨筆跡

同

三ノ間

右 虎

觀音大士

陳石翁

三幅對

左 龍

帝賢大士

張思恭

四應圖

無準禪師

不動尊

龍懶和尚

文殊大士

北殿司

達磨

顏輝子

山水

馬一溪

壺公仙人

唐畫

王之章梅

同

十景圖

羅漢

李龍眠

鷹

徽宗皇帝

鷲

林良

鷹

盧朝陽

山水

唐畫

芙蓉

周文冕

蒲萄

は林泉も
羨客坐所
の倦く人
を莊之



文龍寺
居る
菴

嵐山



卍
卍

策彦和尚
所化

大龍寺
塔頭
妙智院
林泉



石山

策彦和尚
所化



中



龜山殿舊跡 又後醍醐天皇御時林氏東へ今の延龜寺跡也

傍流云

このれ龜山の麓大井川のせせらぎのほとり多きて一た院とせ
はるゝ世をふとくこの山にまを多戸難瀬の滝もさめづ御垣の
内をたてつさやけはるゝ世をせむいもこのつゝとてさへ
がらみしと後醍醐天皇御時とてさへもさへもさへも
あらしむのぬかむつて西に藥料院ひくふも奉養院かといふ
もあり天王寺の金堂うのせせらぎひく多寶院とせやせられ
る大為勝院とせゆる後醍醐天皇御時御持併とせもさへも
龜山の麓の林に殿ふ九月十三日御持併とせもさへも

外よりいへられぬの深ささへもさへもさへもさへも
つゝのものをあらしむるわらじふあふはるゝさへもさへも
大井川なるとてさへもさへもさへもさへもさへも
の先のかれさへもさへもさへもさへもさへも

大井川

三代實録云伊勢齋宮内親王降其野川大井川の傍に勅遣申納言從三位

亭子院の時時 五十九代の帝 宇多天皇 皇太子院と 昌泰元年九月十一日

大井川ふりまわつて帝とて先諸卿和舟とて舟に紀貫之も供
奉しまわつてい集の假名序と書れし奉著園集ふんえり又

圓融院の時宇 六十四代の帝 藤原道長と 大井川とて花流の時詩の船

とかくあつく堪徳の人とのあつたふ四葉大納言ふゆせれ云いばれぬ
舟の舟とて公位に云わおの舟にのささるゝのれり其折ふ

船とてた嵐の山にまをたれ紅紫の錦とぬ人せきた

後不宣ひつらいけはるの舟にのるゆきせとゆれりあき心とてりせれ

しう又詩の舟にまを是やの詩とて能くゆれり名とあけくゆりや

後悔せられりけり花山院捨を真撰とせとて入時紅紫の衣とて

入船たよりゆれられり花山院捨とてゆりやそれとて本のみとて

入ふたりあれと大井川の二船の基ぬる船

十訓抄 大意

大井川の二船とて白河院西川大井川の小り香の清時詩奇管経一多
 の二の船とて深く其乃多の人とて多き事なれに帥民部卿経信卿
 運齋の間去との外に清氣色あつらる程ふばうりまてまをたり
 多るうと事過る人あつたふびなつたてやどの舟にまれよあひ中
 いとれうける時ふ取ていみじくもくわいせん料ふるん運齋せしれ多
 にはせりく管経の舟ふ系し詩奇と秋せしれ多る多き事なれ大瀬川乃
 二の船の清遊とて大鏡ある十訓抄ふるん才徳の部に載られり

本朝文粹

寛弘秋泛大井河各言所懐和歌序
 龜山又下大井河蓬遠侍臣十一輩合宴
 竹觴詠沙鷗與鴛鴦鸞狎近紅葉與綺紵
 標於戲之無事興不偏情不偏好遊之
 誇四海織船者攝州刺史盡于陸之
 有年也林主一人兼花鳥之事暮時
 冷者輸織船者一人兼花鳥之事暮時
 深若靈夢者有八九煙嵐日暮記風
 難一靈夢者有八九煙嵐日暮記風

新茶

後法

後古

王業

後法

後古

後法

後古

後古

後古

後古

後古

後古

後古

後古

後古

後古

後古

後古

後古

後古

後古

後古

後古

嵐山

大井川の南にあり大瀬川とて道七所許あり山中極多し
 嵐山の仙洞なるや嵐山の極とありしなり

ちりぬれを平たむと大井川岸の山吹今さうりぬれ
 大井河まねみゆたふ年をわらわぬの秋海はるけり
 とあちあち入は松ふりぬれと葉のり香れぬとふり
 大井河若波とてまをれといこの麻ふまききたる
 大井河井きたの水や砂とて人早瀬ふりけ聲下ゆえ
 極く竹のうらたの嘆とありしなり

城西三里是嵐山二十年來百往還
 人已數莖新白髮花猶一笑看紅顏

五鳳集

城

人

已

數

莖

新

白

髮

五鳳集 嵐山看花

城西三里是嵐山二十年來百往還
 人已數莖新白髮花猶一笑看紅顏

瑞漢





大堰川上春澹沱宿雨新
 雲花正影山常千
 轉撩人微遊人傾城狂無那
 一輛草屐一枝
 蓀我六村店買白墮醉來益覺興
 激昂松枝
 挂中石上坐真箇移得罨畫溪
 曲都被彩
 雲裏南岸花與北岸對影落春
 涵相映暖鴨
 嘴之灘燕尾沙青慢碧毯一隊
 細馬公子
 按玉羈畫舫佳人唱竹枝蝶
 誤濃香縷紅袖
 莫啣艷雪點金卮少頃初月
 破煙濛流光赴
 花、腫臙何郎酒醒繡羅冷石
 家宴散錦障
 虫君不見嵐山昔日種花辰
 山容學成茅野
 春來去去菜園落今人行樂
 笑古人不知
 今春也電過風傷雨慙一夜
 葦

嵐山觀花歌

橘洲細植

阿比山

花

對

はよ

うさ山

うさ山

月夜

宗祇法師舊唐

法橋の南に所詳あり其地西に法師の古跡あり

蹟

宗祇法師法橋の西に小菴を築きひて之を居り住ありた
ある時野別常縁とてひる時ありて一月の空を人かやも思ふ
まひりて立つたれを尋ねて歸て宗祇の件いつりたり

とあるにそと後じんわつ山里のまきうゆる夕暮乃や

道令法師蹟

道令法師の蹟は藤原相道網御一男なり
乃令法師かくわりて後法橋の蹟也

王業

法をせむはゆるらんさうたつるがみかむるた世小

兼室西芳寺の林泉

兼室西芳寺の林泉は兼室國師より止錫の時洛陽深茂地蔵尊未現
く土石の運ひ共小作りて名園之其後應仁のま火小荒蕪せしと伏見

の傍之助てし者他を補ふといふ

聖武帝天平年中行基之士の州創りて伽藍魏をり年兼久遠も

しく小荒蕪せしとある時拈別の人守掃部頭大江親秀といふ人當山乃

檀越と成り兼室國師と法とて再興小乃と

兼室集

西芳精舎小作ありて兼室の佳花と
兼室ありて日小なり

わつした君のみゆたそ松風ふちぬ梅の色をみるの非

花は小清き小あり老う身小少年のまはれも待つか

征夷將軍 兼室 西芳寺の花さうりにありて

心ある人のせむる々のまをて梅のそくは志高く

文和八年二月西芳精舎の百約連の弁小

忘れか見えし兼室の兼乃兼の窓

松らせくぬさとりみちの梅の非

兼室のうれく兼室といふ山里にありて

心も花も深し兼室さうりて世ふりてをみる

定嗣卿山莊古蹟

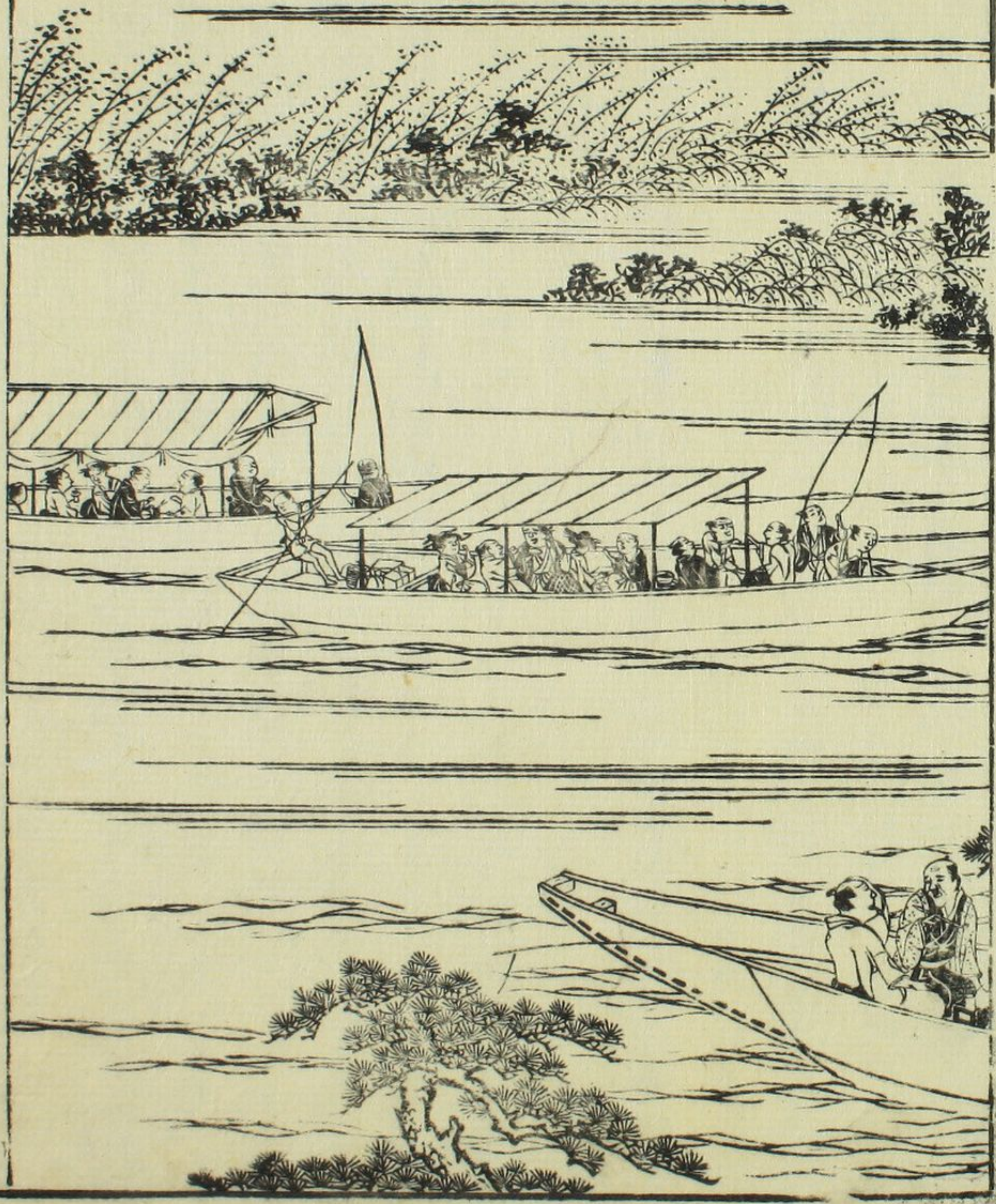
兼室小なり

兼中納言定嗣卿は和漢の才先祖も船をたれ寛元元年の脱履はり

著聞集

兼室のうれく兼室といふ山里にありて

高橋の
舟屋
二葉
柳



桂川
真船



男山

雄徳山山一名幡山或鶴嶺又香爐岩なり

男山山八幡宮立せぬ石清水の源泉あり

八幡山ありあらしの穂は川波ありき浪のわけなり

八幡宮放生會初はくの字位宮より興くありつるなりなり

圓融院字延二年宣育云石清水八月十五日仰雅樂寮准諸

節會延久二年八月十五日自今年上卿以下六衛府馬寮准行幸儀

扈從御已上諸神記

たゞこ心杖のみばのゆきとやまもありて月はるなりなり

放生會八月十日寅の一大別當神主檢知二人の神官神若子はく

神と鳳輦小迂もり振官祠官三神官諸神人義社僧及他姓の

人彌豆小彌豆六位四座神人御劔太刀弓等の神寶公捧け唐櫃九

合瓜若人林邑の樂人若樂と奏し三鳳輦小引經駕連丁はる丸

と冠を鉢八布袖幡若子二人白幣獅子頭史生人駒形兎四人社務

二若法院其外社傍神人神子社人殺百若妻の如く列し若後の

松明殺百の挑打四方と照考これをあらんとく左右の席と儼と遠近

あらふ集ひく群とられ神若の猪鼻瓜下と神樂瓜山下二若居七廿

松の下納屋殿若妻と於茲左右馬寮所馬瓜奉二召使堂外記史

左兵衛府右兵衛府辨冬議上卿左右衛府上屬前驅等納屋殿

小若向とせられり初のめく小供若く宿院の頓宮不到ひり院の

ひり若の儀准と押ひ式後三條院延久二年より始り三神官の神

と頓宮不遷く鳳輦と北門の外神樂舍小並辨左右邊衛冬議

上卿極樂寺礼堂若若若を神人のみか東方の廻席小屯に振官祠

官神若伶人樂若奏一神官神人のみか神供沖酒及造花の委瓜

傳具くく傳入内藏寮并使人進んく官幣宣命と神官若授若二

則頓宮若不献於神官核瓜修一祝詞瓜讀む左右馬寮所馬瓜

奉^りく奉^り奉^り巡^る事^二匣^に於^て茲^に神^宮公^撤と上^卿以下^諸神^人退出^と
其^後伶^人樂^々奏^し社^僧鈍^色の衣^と着^しく高^座に登^り其^余奉^者
み^に於^て最^勝王^經と特^讀其^日言^ふ及^んく還^さし^ま侍^ひ侍^上卿
參^議公^下供^をせ^り頓^宮南^門の傍^に列^立し^て神^祥あり社^務長^吏
神^人伶^人社^傍小^津衣^と着^し白^杖草^鞋各^供を^しく神^と本^殿
再^遷し^後と^候祝^詞公^指くみ^を退^散し^て翌^日十六^日放生^川の^汀に
社^僧多^く誦^經し^て奠^鳥と^河放^川これ^に最^勝王^經長^者子^流水^品
の^池奠^の事^{より}お^もつ^とや^ひ侍^人侍^り

八月十九日早^具猪^鼻と神^樂と^てせ^り八^時の儀^式と^着
樂^の考^をと^うふ^し衣^冠の^を着^はひ^日み^やや^らを^れ引^て還^さす^の
わ^りさ^ぬと^神人^法師^原と^まま^く白^杖と^つま^くぬ^道ふ^おら^り
なる^儀式^とま^れや^社乃^紅顏^{あり}と^世路^みか^れと^夕ア^白骨^と
と^あら^く郊^原ふ^ちめ^る世^のわ^りさ^ぬと^あら^く中^針魚^の祝^とり

つ^く有^りた^事と^も之^は多^く神^佛の^隔た^れと^あら^べし^云

為^社神^式多^たた^不特^に結^しき^と二^月初^日の^沖神^樂又^十二^月十^四日^安居^の
の^神式^{あり}は^た度^張の^儀と^り猪^鼻と^猪鼻^と猪^鼻
八^幡八^系雄^德山^松梅^樂寺^櫻猪^鼻改^雨放生^川蟹^と
傳^人藤^菴云^く月^弓周^名松^竹寺^客又^兼院^鐘

八幡社勢者武内大臣後裔之善法寺新善法寺田中善法寺

平等王院檀竹駿河小洛此堂辨祠官
茶^島の^善法^院の^林泉^ハ小^坂遠^別能^平坊^照兼^翁の^お他^之庭^中に
太^子形^とし^て水^解あり^又遠^別妖^の茶^亭も^{あり}
松^花堂^能本^坊隣^地泉^之坊^ハの^照兼^翁退^院の^自坊^之松^花堂^と
並^棚あり^古体^の唐^戸お^もつ^と之^井も^あら^く編^屋根^茅草^と
額^八分

杏^花堂^比五^昭兼^筆入^深額^六角^同等

石^燈爐^庭中^ハあり^松花^堂慶^安二^年永^代夜^燈
銘^日九月^{十八}日^正良^敬白^秋坊^書院^の画^ハ仍^聖永^德の^書也

か^ちや^麻か^うと^は皮^とも^たの^坊

昭
素
家
故
居



八
幡
泉
坊



林
五
二
十

四
四

松花堂全圖



覆樽集 悼南山松花堂

此老從來與俗殊自工草隸得規模
 琰一浮夢覺歸空界聲價爭傳水墨圖

琴篋

八風の能を傍才はうりし
 心とみかおのりといふと老妻の能もろふ能はわろく 長嘯

山倚妙意菴

其外櫻梅坊も昭素翁の樓の書院の花多し画ハ永徳の筆と
 松花堂の書画多し又山下金剛院の客殿の画も永徳の筆と
 豊金極彩も玉掛殿の西宮秋怨の詩のさるるあり流を巨菴の齋屋
 山下の町に今富九氏とに位に
 山倚妙意菴 禪宗院の抱所へ平尊ハ十一面觀音安ん侍殿の額
 妙菴庵住慧峯南宗等書院の觀人物山水の画ハ永徳の筆
 同裏山水同筆 流張附庵画板戸裁庵松鶴裏菴中
 岩尾長翁共小

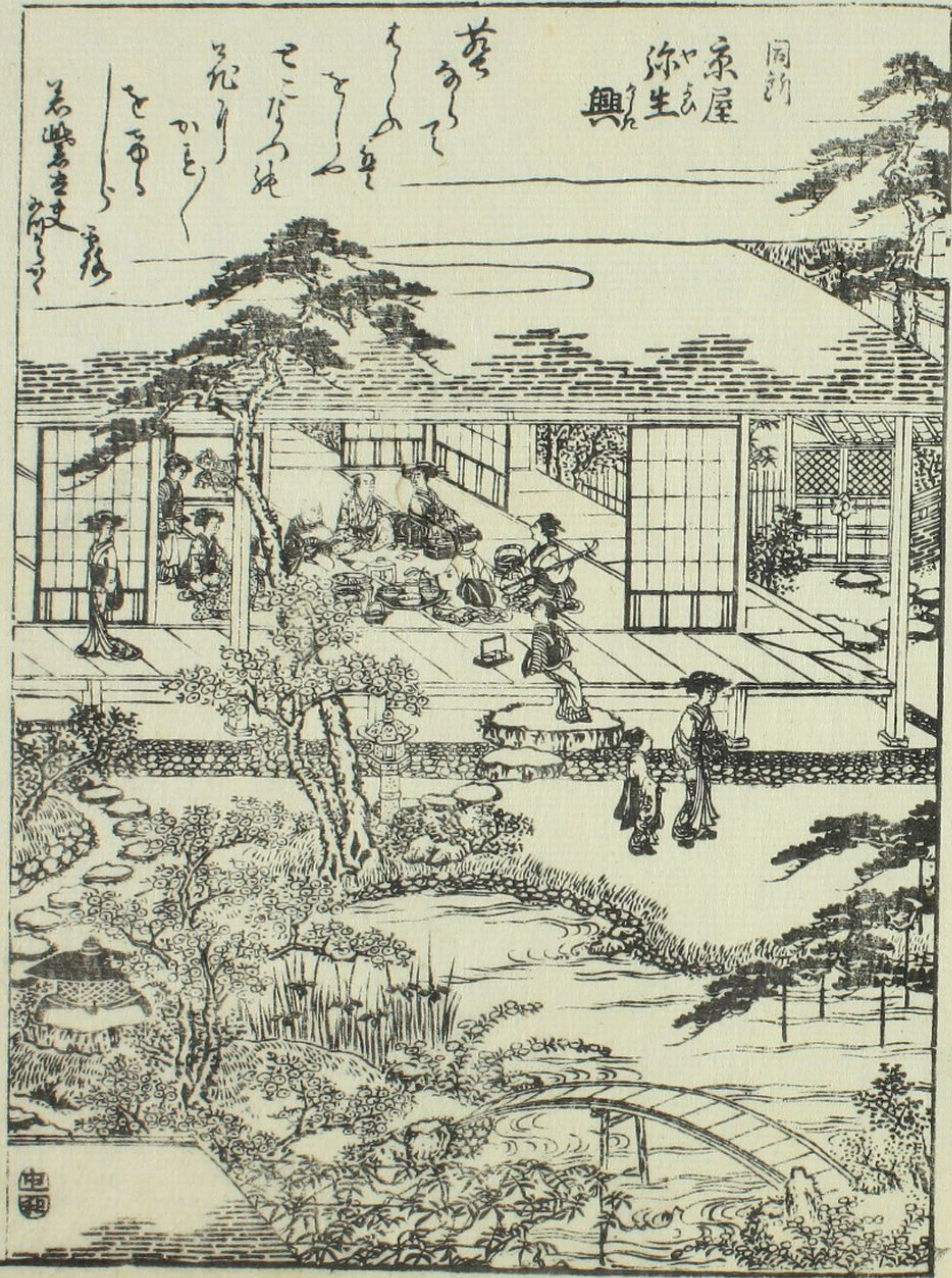
茶室 仲後の側小あり千利休居士の嘗む所也

袖摺松 茶室の側あり利休より出棹の村秀吉公家與一ウハ
 茶室の茶亭ハ入せり人々其古松意サニ文余

芝山子水鉢 茶室の東北を中ふあり芝山と

け敷赤屋の世に名高く茶亭の規模とさるる曾く豊太閤茶室の時
 合地五十石土產とて中今も茶亭に賜ふとをばせり





五十六

さうし今も世女の歌々世々の撰集も撰れ高位はゆきま
あつしあや十訓抄といふ書小都多巻撰集はけいてをさげ賞を蒙る
その古今教と志度あやの賤の女あきひくはせりて野曲も撰れ
私あを好むやうもくもた人みとてねされ撰集を汚れ其書あま
はゆる中又亭子帝宇多 名根院あま河遊宮たりたりといひしと云
事瓜人ことほせり終るるあまをひくはれあまこも集まら其中に
あましく撰ひく書きたれとてつる小丹波の玉淵素戔嗚人の娘
白女と申せり帝河船も考へのせり玉淵の詩奇よまらるる
そのとせのむさあまはあまの奇とよむ登りてとて修らるる
かく世の名やうのひと

ふうみやうのひあるまふあまの撰あまねとまのねらふか 白女
世やた 帝やあわれを終るる河うち着あま一巻を撰せり其外上達部
四位あまのきあめたかくはせけり二面をうら小橋のまらるるといふ
林五五

同女源實はう一はうるる河上撰集も別は惜々る新あま

今またなまけりあまのあまはなうらわりのあまやうは 白女
あまらるるる後小古今集あまのねとまのころる後肥後國の杜女松垣
の姫の後撰集も入神寄の杜女宮城の後拾遺集と藤原青墓の傀儡
名曳の詞集あまゆり江口の杜女妙の新古今の作者ありまは
故實あまの世々の撰集も入雲の上あまはうらとてまはへ

つたふと契りまはまはあまねとまの初一の聲 大橋
者あまのつたふと契りまはまはあまの初一の聲 十市
若母さや郭あまのり乃 花菜 小茶
入定の目ともあまのり乃 後日 瓜生
たともねとて寝覺はまのり乃 花咲
育くの侍身あまはまのり乃 あま 瓜生

都林泉名勝圖會五之卷 大尾

畫工

法橋佐久間草偃



法橋西村中和



奧文鳴源貞章



京都

吉野屋為八

江都

須原屋善五郎

浪速

河内屋喜兵衛

河内屋太助

寬政十一^巳未歲仲夏發行

六角通御幸町西^江入町

皇都書廊

小川多左衛門



